

四国参拝のご案内

とうとう一年間、四国のお参りができませんでしたが、やっと出来るようになりそうです。休止していた遍路宿も再開し、万全ではないかもしれませんが、お参りを予定しています。参加人数が少なければ多少割高にはなりますが、お寺からの補助も考慮しており、皆でお参りをしたいと存じます。

是非この機会にお参りをお考えください。

日 時 十一月十五日(火) 十七日(木)二泊三日

宿泊場所 一日目 遍路宿 長珍屋 二日目 道後プリンスホテル

料 金 四万六千円(暫定)

ただしコロナ禍の影響のため人数や旅行割引などで価格は暫定です。旅行割引があれば相当額が減額になります。次回の讃岐は来年三月八日から十日の予定です。

真言宗の基礎知識(その四十四)

(弘法大師の系譜)

高野山は町内のほとんどが本山金剛峰寺の所有地になっています。町内だけではなく、周囲の山々もほとんどが寺有林です。そして、平均して大阪などの都会より気温が十度近く下がる場所です。

二十年ほど前までは、夏休みになる頃に、大阪の小学校の学校行事として、六年生は林間学校に泊りがけで上って来ていました。涼しさと合わせて歴史上の人物のお墓や、独特の町並みなど、日本の歴史を身近に体感できる場所であったことでしょうか。町の人口を上回る人数の子どもたちで溢れていました。

高野山は一旦その中に入ってしまうと、周りは山々に遮られ、山頂から眼下に広がる橋本市などの都会の景色を見ることが出来ません。比叡山とは違って絶えず都を意識する事は無かったはずで、この閉鎖された世界で、自然と一体になって深い観想の世界に入ってきた長い歴史が続いていました。林間学校はお盆までの僅か一ヶ月にも満たない期間でその喧騒は終わりを告げ、そのあとは早い秋の自然を感じる日々が待っています。

以前、外国人の方のほうは最近が増えてることを書きましたが、日本人にとって単なる観光地の一つになった高野山であっても、歴史的な遺産は今も引き継がれているのです。

次号からはお大師さまが開かれ、ご入定(にゅじょう)されてから今日に至る高野山の歴史を少しずつ書いていこうと思います。

真明寺住職の交代

今年二月の上之坊だよりで報告いたしました、真明寺の清純は今年末を以て住職を退任いたします。

この退山のご本尊への奉告式については本人の健康状態も考慮しつつ、可能であれば真明寺の関係者だけで十一月下旬または十二月初旬に計画をし、また来春の早い時期には孫の清澄の晋山奉告法会を内々で行えるよう検討してまいります。

なお、清純の五十年間の住職については本山から褒賞状と記念品が、真明寺からも退任報奨金が規定であります。本山からの褒賞状と記念品については現在連絡待ちですが、真明寺からの報奨金については少額のため個人で加算して、真明寺庫裏の一部改修と、境内の簡易舗装整備材料費として使用を予定しております。

上之坊だより

令和4年10月10日 第95号
福山市大門町大門325
電話 (084) 941-1031
fax (084) 941-1168

観音菩薩



弘法大師聖語抄

妙薬 函に盈ても嘗ずして益なし

お大師さまの有名なお言葉です。「たとえ箱の中によく効く薬がいっぱいあるとしてもその薬を飲まなければ効果はなく病(やまい)は治らな

い」と書かれています。

この文は比叡山の最澄様との手紙のやり取りにあったもので、お大師さまの生き方がにじみ出ていると思います。いくら優れた教えであつても頭で理解しただけでは十分で、実践しなければ意味はありません、とのお気持ちをお大師さまは行動の人であ

りました。教えを求めて中国に渡り、四国の霊場を開き、高野山に修行の場所を定めたのもすべて御自身自身の願いからでありました。

もししたいことがあれば、きつかけを逃さずまず一歩を踏み出す、その必要性を説いていると思います。できない理由を探して行動を起こさないのではなく、実行すること

が大切であると説かれてい

ます。出来るならば一度は四国や高野山に行つて、お大師さまの開かれた道を体験していただきたいと思います。

コロナ禍での法要などについて

コロナ禍による罹患者が増え、お寺の周りの方でも罹患した人が増えています。ことしのお盆づとめでも、市内の寺院のいくつかはお盆づとめ自体が中止になりました。上之坊のお盆づとめも約三割から辞退のご連絡をいただきました。

コロナの隔離期間は一週間に短くなったとはいえ、風邪やインフルエンザと同列視はできません。

私自身、いままで三十年を越える年月、病気で法事を休んだ事はありませんでしたが、もしコロナに罹病すれば周囲にうつしてしまう危険があるため対応が必要です。

もし私が病気に罹ったら、お葬式の場合は近隣の御住職に導師をお願いし、濃厚接触者で出せないかも知れませんが、僧侶になつているお寺の「清澄」を助法で（役僧のこと）出させたいと存じます。法事の場合は日程の変更が可能であればお願いをし、難しければ近隣の寺院様で代務をお願いしたいと存じます。

いずれにしても、もしコロナに罹りましたら、法務ができず大変ご迷惑をおかけしますが、ご理解願います。

令和四年度総代役員の変更

今年一月以降の総代様の変更です。各地域別選出の総代では、東谷で長年お勤めいただき副総代長もされていた神原宏夫氏が退任され、後任の副総代長（二人）には徳永博司氏が就任され、東谷の総代には神原昌弘氏が就任、石樋では関戸繁正氏から関戸明氏に、幕山では岡村孝二氏から枝廣幸昌氏に、吉浜は長年されていた枝廣正樹氏から枝廣行夫氏に、古地では山廣晴彦氏から山廣啓二氏にそれぞれ変更されました。なお、本山への役員変更は来年春の予定です。また、世話方も約半数の方が変更になっています。このうち二名の方が近年総代が空席になった地域（大谷地区と春日・蔵王地区）から世話方（準総代格）として選出されています。

なお、定例総代会を土砂加持の終了後に行います。総代様にはご出仕を願います。世話方会は来年一月上旬中旬の予定です。

玄冬会（げんとうえ）御案内

今年の玄冬会、一回目を十二月四日（日）の午後一時から実施します。

内容はすす払いと仏教講座、近隣探訪などを予定しております。ご参加ご希望のかたは電話にてお申し込み願います。

土砂加持法要 開催

昨年からのコロナの状況も好転し、少しずつでも日常が戻るように願っております。恒例の土砂加持法要を十一月十二日土曜日午後一時半より開催いたします。

今年は形式を以前の方法に少し戻し、感染症に気をつけて実施をいたしますので、ご協力をよろしく願います。

お参りの方の人数制限はいたしません。会場の広さを昨年同様に広く取って対応をいたしますが、マスクの着用をお願いいたします。

当日は午後一時半より法話、二時よりとうば供養があり、引き続き土砂加持のお勤めを四時前まで予定しております。

なお、法要で「板とうば」をつくり、お墓に建てたい方はお申し込みください。供養料を含めて三千元となります。

また、お墓に塔婆を建てにくい方は紙の塔婆をつくり供養を行います。供養料は千五百円です。

加持したお土砂をご希望の方は法要終了後にお分け致しますのでお残り願います。板とうば申込みの方には無料でお分け致します。またお土砂のみご希望の方には三百円のお賽銭をご用意下さい。

板とうばや供養のお申込みは別紙にてお申込み下さい。当日参加できない場合は後日の受け取りでも結構です。

なお、明年の年忌名簿については、本堂正面に土砂加持の日より掲示をいたします。

どうぞ、先祖供養をご希望の方はお参りいただきますようにご案内申し上げます。

これからのお寺の行事について

① 今秋十一月十五日から三日間で四国巡拝を再開する予定です。昨年の十一月に四十番で終っておりますので今回は四十一番から六十四番までの行程です。コロナ禍が小康を保つていれば来年三月八日から十日頃に香川県のお参りを考えます。「キャンペーン」が実施されていれば利用をしますが、無くてもお参りはしたいと考えます。

② 土砂加持は形式を戻して実施をいたします。マスクをしてご参加ください。手指消毒は用意をいたします。人数の制限はいたしません。今回も昨年同様、場所を広く取ってお勤めをいたします。総代会は土砂加持の終了後に実施いたします。

③ 玄冬会は昨年同様にすす払い・大掃除と一緒に実施をいたします。日程は十二月四日（日曜日）を予定しております。

④ 得度式は来年春三月に実施をいたします。（日時未定）ご希望の方は来年一月から受付をいたします。

⑤ 月並護摩祈願は毎月実施いたします。

⑥ 星祭りは状況次第ですが、従前の形式または二部制程度までに戻して実施したいと存じます。

⑦ 高野山参拝も来年五月にお参りしたいと思っております。